

▶ 災害救援ストレス対策研修を実施して ◀

岡山県倉敷市消防局

1. 倉敷市の概要

倉敷市は、瀬戸内海国立公園に面し、四国から山陰地方へつながる南北の交通軸と、東西に走る山陽道が交差する中国地方の拠点となる人口約48万人の中核市です。

江戸時代には商人の町、明治時代には繊維工業の町、近年は瀬戸内海沿いの重工業地帯として発展してきました。温暖な気候と豊かな自然にも恵まれ、農業や漁業も盛んです。

白壁の建物と柳並木が美しい美観地区のある「倉敷エリア」をはじめ、瀬戸大橋と国産ジーンズ発祥の町「児島エリア」、日本有数の工業地帯である「水島エリア」、ノスタルジックな町並みを残したマスカット王国「玉島エリア」など、地域によって異なる雰囲気を持っています。



観光地 ジーンズストリート
(デニム天日干し)



観光地 美観地区 夜間景観照明

2. 倉敷市消防団について

本市の消防団は、平成20年4月1日に現在の体制(4方面隊42分団73部)となり、平成28年4月1日現在1,999名(定員2,059名)が在籍しています。主な活動としては、火災や風水害といった災害時の出動はもとより、いつ発生するか分からない大規模災害に備え、方面隊、分団ごとに日々訓練を行っています。また、町内行事への積極的な参加や各種イベントでの警備を行い、地域に密着した消防団を目指し活動しています。

平成20年4月1日からは、女性消防団員の採用を開始し、平成28年4月1日現在73名の女性消防団員が活躍しています。この女性消防団員を中心に、火災啓発劇や防火紙芝居等の火災予防の広報活動にも力を入れています。

3. 災害救援ストレス対策研修開催の経緯

近年は、東日本大震災をはじめとして、熊本地震や集中豪雨による水害など大規模な災害が数多く発生しており、消防団員が悲惨な現場に遭遇する機会が多くなっています。

当市消防団員についても、このような悲惨な現場に遭遇し、惨事ストレス障害を発症する可能性があることから、惨事ストレス対策についての教育が必要ではないかと幹部団員から提案があり、当研修を開催することになりました。

4. 災害救援ストレス対策研修を実施して

平成28年8月26日(金)に倉敷市内の研修施設で、香川カウンセリングセンター所長の浅海明子氏を講師にお招きし、「消防団員災害救援ストレス対策研修」を開催しました。

集まった本市消防団員63名に対し、惨事スト

レスになりやすい状況や惨事ストレス反応の種類、その対策について講義していただきました。

講義では、自然災害起因の惨事ストレス反応の発症率が比較的低い(3%)大きな要因として、感情や体験を周囲と共有できることが考えられ、悲惨な体験を伴う消防団活動では、周囲と体験を共有することが発症を抑えるポイントであるとの説明を受けました。

また、災害救援者によくある「逃げ道がない過酷な考え方(弱音を吐いてはいけない、おれはそれでやってきた等。)」は、自分だけでなく、ほかに犠牲者を生み出しやすい考え方であることを学びました。



研修の様子

5. 受講者の感想

受講者からは、次のような感想が寄せられました。

「ストレスの受け方は個人差が大きいので、少

しの異変にも気づき合えるよう、普段から団員同士のコミュニケーションを大切にしたいと思っています。」

「昔のように精神論だけでは片付けられないと思うので、部下団員への接し方について、もう一度考えてみます。」

「話の聞き方で相手に与えるストレスは変わってくることを学び、今後、注意していきたいと思います。」

「相手の考えを否定し、相手に自分の考え方を押し付けることは、相手にとって相当なストレスになるように感じました。」

6. 今後の取組について

これまで本市消防団では、惨事ストレスに関する研修は実施していませんでしたが、浅海講師の丁寧な講義により、受講者の理解は深まったと感じています。

なお、今回受講した団員は、分団長以上の幹部団員であり、受講団員が所属に戻り、部下団員へ伝達する機会を作り、組織を挙げて惨事ストレスに対する理解を深めていきたいと考えています。

また、今回の研修を団員同士の惨事ストレス対策だけではなく、火災や風水害のほか、大規模災害時に被害にあわれた方々へ接する場合にも、研修内容を活かし活動をしていきたいと思っています。